

第 35 回世界遺産委員会の決議への今年度の対応状況について

全般的方針

関係機関等の連携・協力のもと、「小笠原諸島管理計画」（以下、「管理計画」という。）の着実な実施を進め、世界自然遺産に登録された小笠原諸島の生態系の顕著な普遍的価値を維持・保全するための取組みの継続・強化を図る。

我が国への要請・奨励事項への対応について

第 35 回世界遺産委員会での決議内容		取組方針（平成 23 年度第 1 回科学委員会に提示済）	平成 28 年度を取組状況
○ 要 請 事 項	a) 侵略的外来種対策を継続すること。	・管理計画に基づいて、既に侵入した侵略的外来種の駆除を着実に実施し、小笠原諸島の生態系に外来種が及ぼす影響の排除に努めるとともに、新たな外来種の侵入・拡散予防措置を推進する。	① グリーンアノール対策WGの検討概要（資料 2） ② 陸産貝類保全WGの検討概要（資料 3） ③ 父島列島生態系保全管理WGの検討概要（資料 4） ④ 管理計画・アクションプラン改定WGの検討概要（資料 5） ⑤ 外来ほ乳類対策の検討状況（資料 6～8） ⑥ 国有林・修復事業計画（資料 9） ⑦ 新たな外来種への対応状況（資料 10） ⑧ 外来種対策をはじめ管理計画の実施を支援するための施設の設置（資料 11）

第 35 回世界遺産委員会での決議内容	取組方針（平成 23 年度第 1 回科学委員会に提示済）	平成 28 年度を取組状況
<p>b) 観光や諸島へのアクセスなど、すべての重要なインフラ開発について、事前に厳格な環境影響評価を確実に実施すること。</p>	<p>・インフラ開発を含む各種事業の実施にあたっては、「東京都環境影響評価条例」などの関係法令等に従い、事前の適切な環境影響評価を実施する。また、自然環境への負の影響を回避・最小化するため、その事業の特性に応じて環境配慮措置の適切な運用（事前の慎重なチェック、実施段階での配慮の徹底、事後評価）を図る。</p>	<p>・東京都は平成 26 年 11 月に「小笠原諸島の公共事業における環境配慮マニュアル（試行版）」を作成。</p> <p>・小笠原村では東京都の指針やマニュアルを参考に、環境配慮実施のための仕組みづくりを庁内で検討中。</p>
<p>○奨励事項</p>	<p>a) 資産における海域公園地区をさらに拡張することを検討すること。それにより、管理効率が向上し、海域と陸域を結ぶ生態系の完全性が強化されることが期待される。</p>	<p>・環境省は平成 27 年度から平成 29 年度を目処に小笠原国立公園の公園計画の点検作業中。都は海域における基礎調査を継続。</p>
	<p>b) 気候変動が資産に与える影響を評価し、適応するための研究及びモニタリング計画を策定、実施すること。</p>	<p>・平成 24 年度に策定した森林生態系における気候変動の影響に関するモニタリングプログラムに基づくデータの収集・整理を実施。また、森林生態系における気候変動の影響への適応策を検討中。</p>

第 35 回世界遺産委員会での決議内容	取組方針（平成 23 年度第 1 回科学委員会に提示済）	平成 28 年度取組状況																					
<p>c) 将来的に来島者が増加することを予測し、注意深い観光管理を確実に実施すること。特に、小笠原エコツアーリズム協議会を強化するために、科学委員会をそのメンバーに加え、諸島の価値を保護するような適切な観光方針を助言してもらうこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域・ルートそれぞれの魅力を紹介するなど、観光による利用集中が起こらないようPR・普及啓発に努める。 ・小笠原エコツアーリズム協議会のアドバイザーとして科学委員会を代表して委員長に就任いただき、観光管理方針について科学委員会としての適切な助言を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年 7 月から、大河内委員長に設置要綱第 6 条に定めるアドバイザーに就任していただいている。 ・小笠原村はエコツアー推進法に基づくエコツアーリズム全体構想を策定し、平成 28 年 1 月に認定を受けた。 <p>(参考) 定期船による来島者数 (人)</p> <table border="1" data-bbox="1473 576 2056 922"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>おがさわら丸</th> <th>ははじま丸</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 22 年度</td> <td>13,572</td> <td>6,922</td> </tr> <tr> <td>平成 23 年度</td> <td>21,854</td> <td>7,883</td> </tr> <tr> <td>平成 24 年度</td> <td>22,643</td> <td>7,859</td> </tr> <tr> <td>平成 25 年度</td> <td>19,721</td> <td>7,964</td> </tr> <tr> <td>平成 26 年度</td> <td>17,938</td> <td>5,845</td> </tr> <tr> <td>平成 27 年度</td> <td>16,900</td> <td>5,674</td> </tr> </tbody> </table> <p>* おがさわら丸に関しては、観光客数を抽出。 * ははじま丸に関しては、島民を除いた数。</p>	年度	おがさわら丸	ははじま丸	平成 22 年度	13,572	6,922	平成 23 年度	21,854	7,883	平成 24 年度	22,643	7,859	平成 25 年度	19,721	7,964	平成 26 年度	17,938	5,845	平成 27 年度	16,900	5,674
年度	おがさわら丸	ははじま丸																					
平成 22 年度	13,572	6,922																					
平成 23 年度	21,854	7,883																					
平成 24 年度	22,643	7,859																					
平成 25 年度	19,721	7,964																					
平成 26 年度	17,938	5,845																					
平成 27 年度	16,900	5,674																					

第 35 回世界遺産委員会での決議内容	取組方針（平成 23 年度第 1 回科学委員会に提示済）	平成 28 年度を取組状況
<p>d) 観光による影響を管理するために、観光業者に対して、必須条件と認証制度を設定するなどして、注意深い規制と奨励措置を確実に行うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在行われている観光業者への規制や制度などの徹底、効果の検証、必要に応じた見直しを行う。 ・ 陸域ガイドの登録制度を平成 23 年度より運用開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小笠原エコツーリズム協議会では、小笠原固有の自然や文化を保全して持続的な利用を図ることにより、信頼されるガイドとして地域振興に貢献することを目的に、小笠原陸域ガイド登録制度を実施している。 <li style="padding-left: 20px;">* 平成 28 年 12 月現在 登録ガイド 23 名 登録準ガイド 1 名 ・ 農協では、農作物に世界遺産シールを貼付するなどブランドの付加価値を高めている。